

## 瑞祥二題

公益社団法人 全国行政相談委員連合協議会会長

## 小野 勝久



新春を寿ぎ皆さまのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

昨年は全相協設立51年目の年を迎え、新たな決意のもとにスタートしました。皆様の温かいご支援ご協力によりお陰様で所期の事業を着実に遂行させていただいております。関係する多くの方々に厚く御礼と感謝を申し上げます。

昨年は、天皇陛下の御代替わりとしての国の行事に行政相談委員の代表として招かれ参列させていただきました。

そこで、その記念すべき二つの行事をご紹介します。

まずは、天皇陛下御在位30年記念式典とそのお茶会についてです。憲政史上初のご退位を控え、政府が主催した「御在位30年記念式典」(平成31年2月24日(日)午前、東京・国立劇場)には、国内外から約1,100人が招かれました。この模様はテレビなどで中継放映され、新聞その他ニュースでも報道されたのでご承知の方も多いと思います。

式典で天皇陛下は「お言葉」の中で、「憲法で定められた象徴として

の天皇像を模索する道は果てしなく遠く、」と30年の思いを語られ、「次の時代、更に次の時代と象徴のあるべき姿を補いつつ続けていってくださることを願う」と希望も託されました。

また式典では天皇・皇后両陛下の和歌や沖縄の短歌「琉歌」が歌唱され、まさに厳肅な中にも和やかな式典でした。特に印象深く記憶に残っているのは安倍首相の先導で退場されかけた途中で再度お戻りになられ、式典参加の皆に手を振られたその姿でした。そこまでもお気遣いされるその姿勢に敬愛の念を一層強い

ものとするとともに、心から「お疲れさまでした」と申し上げた次第でした。

式典で朗読された天皇・皇后両陛下の和歌は、

天皇陛下

我が国の旅重ねきて思ふかな  
年経る毎に町はどとのふ

皇后陛下

ひと時の幸分かつがに人びとの  
佇むゆふべ町に花降る

でした。2003年の歌会始で「町」のお題で詠まれたもので、天皇陛下が全国各地を巡る旅で、それぞれの町が整ってきていることを、皇后陛下は、桜の花びらが舞う中、町のあちこちで佇む人々が花見を楽しみ様子を描写されたものです。

2月26日(火)午前、天皇・皇后両陛下主催の宮中茶会が皇居「豊明殿」で催され、これに参列させていただきました。「本日こうして茶会を催し、ともにひとときを過ごすことをうれしく思います。」とのお言葉を頂きました。

茶会は立食パーティーで、オードブルやワインなどの飲み物がモーニングを着た職員によって配られました。

この会には大村智さんなどノーベル賞受賞者やプロ野球の王さん、ゴルフの石川遼さん、柔道の山下さん、大相撲の八角理事長などの顔も見えました。

私の前にちょうど、秋篠宮家の皆様が並ばれたので、佳子様には「島根の隠岐の島で大学センター試験を受けられるように試験会場を改善した」お話を、眞子様には「平成29年から、最高裁判所裁判官の国民審査と衆議院議員総選挙の期日前投票日を統一してほしいという声からこれができるように改善した」ことなど、国民の困りごとを行政相談委員が相談を受け、改善に結び付けている具体的な事例をご紹介して、行政相談委員の働きや存在をじっくりPRさせていただきました。

次に秋は、令和を迎えて初めて行われる国事としての即位礼正殿の儀

と饗宴の儀にも行政相談委員の代表としてお招きをうけ、参列させていただきます。

「即位礼正殿の儀」は10月22日(火、臨時祝日)、宮中「松の間」で行われ、約2,000名の参列者は「豊明殿」と「春秋の間」に分かれて式を見守ることになりました。古式装束(黄櫨染御袍(こうろぜんのごぼう))を着用された陛下が天孫降臨神話に由来するという「高御座」から「国民の幸せと世界の平和を常に願ひ国民に寄り添いながら、」と力強く宣明されました。儀式は司会者もなく、鉦の合図で起立、鼓の合図で敬礼、内閣総理大臣の寿詞(よごと)のあとの万歳三唱、高御座と御帳台の御帳が閉じられて鉦の合図で着席という流れで進みましたが、お言葉を述べられているころ、私たちのいた豊明殿の正面の空が俄かに明るくなったのがとても劇的で未来の瑞祥を感じました。歴史的な行事のその場に立ち会えた感激は、身に余る光栄と思うと同時に私の生涯の思い出になりました。

当日私は、総務省、警察庁関係招待者の皆様とバスで皇居に入り午前11時に「豊明殿」に案内され、午後1時からの式典を待つことになりました。「豊明殿」は、立法関係の衆参両院議員、司法関係者、地方公共団体の県知事、議長、国の賓客や文化勲章受章者、元国会議員、政令指定都市長、議長などの顔が見えました。

29日(木)午後、御即位を披露され、祝福を受けられるための饗宴の儀が執り行われました。当日、参列者は、まず松の間に案内され、安置されている「高御座」や「御帳台」を拝見してから、「春秋の間」に入りました。最前列にいたこともあって直接天皇、皇后両陛下にお会いする機会を得ました。咄嗟に「行政相談です」と一礼した次第です。

両陛下のお出ましを待つ間、私はスポーツ関係の方々グループ、隣に重量挙げの三宅義信さん、柔道の谷亮子さん、マラソンの高橋尚子さん、私の後ろにレスリングの伊調馨

さん、大相撲の浅香山親方(元魁皇)、自転車の中野さん、F1レーサーの佐藤さんなどの参列者と言葉を交わしていましたが、特に、三宅さんとは重量挙げで大切なこと「呼吸について」を伺ったり、浅香山親方(元魁皇)とは現在日本相撲協会理事で私の地元日立市出身の鏡山親方(元多賀竜関)についての話などしていました。

行政相談委員がこのような荣誉に浴するのは、国が行政相談委員の日ごろの活動を高く評価されていることにほかならず、行政相談委員もこの評価に自信と誇りをもってこれからも社会の一隅で国民と行政の懸け橋としての務めを果たしていかねればならないと決意を新たにしました。この感激を行政相談委員皆さまにお伝えし、モチベーションアップに幾らかでもお役に立つようになすこと、それがこれからの私に課せられた責務ではないかと考えました。

即位礼正殿の儀や饗宴の儀の二つ

の重要な儀式に参列させていただいて私が抱いた率直な感想を申し上げます。即位に関する諸行事が国事行為か宮中行事か、宗教色があるので、はとか恩赦は施してはならないかなど、いろいろな意見があることは承知していますが、それについて大切なことは、皇室の伝統行事と憲法の整合性をどう調和させるかに尽きるのではないかと感じました。

天皇自らが皇位を譲る形式をとらないのは、天皇の政治的機能を避けるために他ならないと思います。むしろこれら行事が一貫して、「国民の幸せ」と「平和」を願うことであることや、日本古来の伝統行事の持つ歴史的意味と、日本文化の「誇り」を大切にして次の世代に繋いで行こうという考えによるものである限り、これらの行事が執り行われた意義について国民の一人としても頷けるものではないかと思つた次第です。